

第1回 蕨市行政改革プラン策定に係る市民懇談会 会議概要

■日 時 令和6年7月30日（火） 午後1時30分～午後3時15分

■場 所 市役所5階 第1・2委員会室

■出席者（敬称略）

委 員：林 大樹、坪井 真、植田 富美子、長谷川 浩司、岡本 和子、梅谷 知弘
吉田 愛佳、中村 和弘、林 枝里
（欠席者）笹渕 敏子

頼高 英雄市長

事務局：阿部 泰洋（総務部長）、佐藤 則之（総務部次長兼政策課長）
菊地 雅治（政策課係長）、市川 翔太（政策課主査）
藤田 睦子（政策課主事）

■次 第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 自己紹介
5. 会長選出
6. 議題
 - （1）会議の公開、傍聴に係る取り決めについて
 - （2）市民懇談会の概要等について
 - （3）「コンパクトシティ蕨」将来ビジョン推進プランⅡの進捗状況等について
 - （4）意見交換
 - （5）その他
7. 閉会

■内 容

【開会】

【委嘱状交付】

【市長あいさつ】

【自己紹介】

【会長選出】

会長に林委員を選出。

【議題】

（１）会議の公開、傍聴に係る取り決めについて

事務局から、会議の公開について概要を説明した（資料３・資料４参照）。

⇒会議の公開、傍聴に係る取り決めについて、資料３「蕨市審議会等の会議の公開に関する要綱」および資料４「蕨市行政改革プラン策定に係る市民懇談会の傍聴にかかる取り決め（案）」のとおり取り扱うことです承し、傍聴の定員は４人と定めた。

（２）市民懇談会の概要等について

事務局から市民懇談会の概要について説明した（資料５参照）。

（３）「コンパクトシティ蕨」将来ビジョン推進プランⅡの進捗状況等について

事務局から、「コンパクトシティ蕨」将来ビジョン推進プランⅡの進捗状況等について説明した（資料６・資料７参照）。

（４）意見交換

各委員から、次のとおり意見・質問等をいただいた。

委 員：「ヤングケアラー支援条例」の制定に当たって実施したパブリック・コメントでは、当事者である子どもたちからの意見の提出は無かったということか。

事 務 局：そのとおりである。

委 員：このパブリック・コメントに当たってヤングケアラーに該当する子どもの有無を調べる調査は実施したのか。

事 務 局：今回のパブリック・コメントでは、そのような調査を実施していない。担当の子ども未来課では、市内の小・中学校や民生委員、介護・障害者施設などに対してチラシ等を配布し、ヤングケアラーの情報提供を求めるなど、把握に努めているが、現時点において、支援を必要としている子どもの情報はあがってきていない。今後についても、関係機関と連携してヤングケアラーの把握に努め、必要な支援につなげていきたいと考えている。

※会議中の回答内容を一部補足しています。

委 員：教育や子育てに関することは市民懇談会の議題にあてはまらないか。

事 務 局：教育や子育てについては、市の最上位計画である『コンパクトシティ蕨』

将来ビジョンⅡ」のまちづくりの重点方向に示しているため、将来ビジョンⅡを推進するための議題としつつ、行政改革の要素である DX 推進や SDGs の理念等を絡めた意見をいただけるとありがたい。

委員：留守家庭児童指導室を民間に委託したことによる評判や改善点等が気になる。良い評判であれば今後も推進すべきである。

委員：わらびりんごが蕨市民以外にはあまり知られていないと感じるため、もう少し周知を図るべきである。例えば、市が苗木を販売したり配布したりすることで、市内のさまざまな場所でわらびりんごの木を見ることができるようになれば、わらびりんごがより広く知られるようになるだろう。

事務局：市の情報発信の強化が求められていることは、認識している。今後どのような情報発信の方法が適切かという意見もいただきながら検討したい。

委員：他市の職員教育と比較して蕨市の職員教育の状況はどうか。また、他市の職員教育の状況について把握しているのか。

事務局：市の職員教育は、職員力の向上という面でも重要であると認識している。そのため、担当課としても他市の情報を収集しながら、より良い研修のあり方について日々研究している。

委員：「他市と比較してどうか」という競合研究は重要であるため、市の職員は、周りの市の状況の把握に努めるべきである。

委員：市内で実施している防災訓練は、地震を想定したものが多い。最近は豪雨も多く発生していることから、今後は水害を想定した防災訓練も実施すべきである。

委員：市内に住む外国人のなかには、マナーが良くない人もいる。受け入れる側の意識も重要だが、外国人に対して道德教育に関連する取組をしてはどうか。例えば、住民票を発行する際にマナーに関する動画を見せるなど、デジタルを活用した取組も有効だと考える。

事務局：転入してきた外国人に向けて外国語でゴミ出しのルール等をまとめた生活ガイドブックを配布しており、そのなかで日常生活のルール・習慣等については周知しているが、道德教育に関連した取組は実施していない。今後どのような対応が可能かを考えていきたい。

委員：行政職員の離職者が増加していると聞いたが、蕨市の離職者はどのくらいいるのか。

事務局：令和4年度については、退職者合計23名のうち、自己都合退職者が19名、令和3年度については、退職者合計30名のうち、自己都合退職者が18名である。自己都合退職のなかには、育児や介護等といった家庭の事情などさまざまなあり、詳細な理由の把握が難しい状況もある。

委員：近年、行政職員のメンタルヘルスの問題が多い印象がある。メンタルヘルス

研修やストレスチェック等は実施していると思われるが、内部通報制度は設けているのか。また、定年年齢が延長されたが、役職定年は設けているのか。

事務局：内部通報制度や役職定年は設けている。

委員：人口減少社会のなかで、人材確保の体制を整えることは結果的に行財政改革につながると考える。早くに退職する職員を減らし、できるだけ長く勤めることができるような取組をしてほしい。

委員：市の今後を考えると、超高齢社会への対応や蕨駅西口再開発事業、市立病院の建替え等の取組があり、財政のバランスがより一層重要になると感じる。また、今後は若い世代が定住できるような取組を考えるべきである。例えば、駅前の市が所有している土地は、現在駐輪場として活用しているが、もう少し有効に活用し、子どもたちのための施設や、市民の利便性を向上させる公共施設をつくるなど、未来の蕨市の発展につながるまちづくりをしてほしい。

委員：基調コンセプトにある、市民参画・協働は重要だと考えている。懇談会での意見交換においても、行政の役割と市民の役割を具体的にどう検討していくかが重要であると考えているがいかがか。

事務局：通常の行政改革では、歳入を増やして歳出を減らすことが重視されると思うが、ご意見のとおり、蕨市の行政改革においては、『コンパクトシティ蕨』将来ビジョンⅡ』にも示したとおり、市民参画・協働を重視しており、市民や民間事業者との連携を大切にしながら事業を進めていきたいと考えている。

委員：実際、市民がまちづくりに参加するのは難しいと感じる。例えば、地域に市民が集まる場や機会を設けたり、子どもたちがまちづくりについて考える機会を提供したり、市民と職員が交流する場をつくるなど、具体的な取組を検討すべきである。また、実在の場所に限らず、デジタル技術を活用してインターネット上で市民が自由に意見交換できる場を設けることも効果的だと考える。

会長：最近、同居家族の友人が熱中症になった際に、ヘルパーではなく家族のところに連絡をしてきたということがあった。地域コミュニティが豊かであることは素晴らしいと思うが、介護人材が不足しているのではないかと懸念も感じた。現在の行政改革プランでは、高齢者に関する項目が少ないと感じるので、新たな行政改革プランでは、こうした視点も含めて検討してほしい。

委員：高齢者は、年金の受給額が少ないにもかかわらず入所施設の利用料が高額で苦勞している。もう少し安価な施設をつくるなど、年金だけで生活が成り立つような施策があるとありがたい。

委員：介護人材の不足について、実際にエッセンシャルワーカー（教育・福祉・保育・介護等）を目指す学生が減少していたり、職員の不足により稼働率の低

い高齢者入所施設があったりして、課題だと感じる。そのため、今後は介護人材等のエッセンシャルワーカーの確保に向けた取組を検討すべきである。

委員：実際に介護の現場をみていると、力仕事が多く職員の負担が大きいと感じる。こうした困難さが、介護人材の不足につながっているのではないか。力仕事にデジタル技術を活用するなど、新しいサービスのあり方を検討してもよいだろう。

事務局：高齢者福祉に関することは、『コンパクトシティ蕨』将来ビジョンⅡ」の重点プロジェクト「4. みんなで笑顔・健幸シティプロジェクト」で示しており、非常に重要であると認識している。いただいた意見をもとに今後も引き続き推進していきたい。

委員：学校で障害児の教育を行う際に、教育と福祉の連携がとても重要である。岐阜県飛騨市では、各学校に作業療法士が入り、子どもの学習のつまずきや悩みに寄り添う取組が行われている。教育と福祉は全く異なる分野のため、難しい点もあると思うが、蕨市においても支援員に福祉の専門家を配置するなど、学校のなかで障害児のケアができる体制があるとよいと考える。また、蕨市はスクールカウンセラーの数が少なく、常に配置されているわけではないので改善の余地があると感じる。

委員：情報発信について、さらに推進していくべきである。市税の収納率が2年連続県内トップの伸び率であったことや、令和6年能登半島地震の被災地へ職員を派遣したということもあまり知られていないと感じる。もう少し積極的に発信したほうがよいのではないか。

事務局：他の会議でも情報発信が不十分だという意見があり、課題であると認識している。よりよい情報発信の方法について検討していきたい。

委員：職員提案制度について、提出件数が少ないと感じる。制度の内容や提出された意見等を詳しく情報発信したほうがよい。また、賞金等はもらえる制度なのか。

事務局：提出された提案等の事例は、審査委員会で審査した後、表彰される。優秀賞が10,000円、優良賞が5,000円、努力賞が3,000円相当分の褒賞品（協定自治体等の特産品等）を贈呈している。

委員：SDGs 協働事業提案制度について、応募のハードルが高いと感じる。SDGsは非常に難しいテーマであるため、担当する市の職員も具体的にどのように蕨市に活用できるかを考え、協働の意識をもって取り組んでほしい。

委員：高齢者の免許返納後の交通手段として、コミュニティバスを利用する人が多いと思うが、ルートや本数が不十分だと感じるので拡充してほしい。ただ、運転手の人材不足の課題もあると思われるため、自動運転バスやAIを活用したデマンド交通の導入などを検討すべきと考える。

事務局：ご指摘のとおり、高齢化社会のなかで交通手段の充実は必要不可欠であるため、蕨市に適した新しい交通手段について引き続き検討していきたい。

委員：市長タウンミーティング以外で、市民の声を市役所に届ける手段はあるのか。また、提出された意見の公開はしていないのか。

事務局：ホームページの各ページからお問い合わせができるほか、市民の皆さんから市政に関する提言を受け付ける「市長への手紙」というものがあり、ご意見はホームページや市役所１階に設置されている専用の箱から提出することができる。また、現在ホームページや市長への手紙でいただいたご意見の公開等を行っていないが、市長タウンミーティングでいただいたご意見とそれに対する市の回答は、ホームページで公開している。

委員：不法投棄等のごみ問題について、市役所に相談しに行ったら担当する窓口がないという理由で聞いてもらえなかったということがあった。市民としては、市役所に相談すれば聞いてもらえると思い相談しているので、もう少し寄り添った対応をしてほしい。

事務局：ご指摘のとおり、市民に寄り添った対応をするというのは、職員力の向上という面でも当然必要なことだと認識している。

（５）その他

事務局から、今後のスケジュールについて再度確認（資料５参照）

委員：会議概要はできるだけ早めに委員へ提供してほしい。紙面ではなくメール等を使用して取りまとめてもよいのではないか。

事務局：検討させていただきたい。また、できるだけ早くお示しできるよう努めたい。